

日々新聞

第拾七号

明治廿一年四月廿一日

加茂屋

修政局

麹町小目東京府主族河野
 猛臣といふ人其弟士三目小布沢某
 同居加藤久次と至て親意兄弟の如く
 交り深き此河野我々眉毛の薄きを
 苦みして里坐せ仰ぐあともうてせ有る男あり
 明治廿一年四月廿一日の朝河野加茂の邸へ行き
 ソも加茂四方やまのまをしのしくまを居る内
 折々物ふ事とつとも兼
 てのせと加茂合
 手よあつて居る
 ち河野がよま残念あ
 まと有り有る屋一の密の
 下中て居る眉毛のうを
 甘中が笑ひしとくあり
 残念なるを加茂何もを
 なる事ハあはれと云ふ内聖敷
 何の刀を一見とつと何
 心なく河野もてせを
 後て加茂を切付け大笑張ふ天刀



二太刀切付る不意を
 討もて加茂の其場で死あはれら直むるまはし

